



6. 研究成果発表等の見通し及び今後の研究計画の方向性 (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

本プログラム中に得られた研究結果をもとに解析を続け、学会や論文等で研究成果を報告する予定である。派遣先研究室で従事したテーマは植物の先端成長に必須の役割を担うタンパク質の生化学的活性解析であり、先端成長メカニズムについての詳細な報告を行うためには細胞生物学的な解析が必要だと考えられる。派遣先研究室では、既に同タンパク質の細胞生物学的視点からの機能解析が行われており、この結果が得られ次第、まとめて論文として報告する予定である。

また、私自身の今後の研究計画の方向性として、新たな研究テーマに取り組んでいくことを考えている。本プログラムを始める前までは、植物細胞内の細胞内輸送機構についての研究に従事しており、進化の過程で細胞質ダイニンを失った陸上植物の微小管依存的細胞内輸送が、いかにして遂行されるのかについてヒメツリガネゴケを用いて研究を行ってきた。本プログラムの派遣先研究室では植物細胞の細胞伸長機構についての研究として、ヒメツリガネゴケの先端成長に必須な機能を担うタンパク質の生化学的解析に従事した。そして、同じモデル生物を用いて複数の研究テーマに従事してきた今現在、植物の細胞分裂メカニズムに一番興味を持っており、これについての研究を行っていきたいと考えている。現在のモデルであるヒメツリガネゴケを扱ってきた経験はすでに6年近くになり、今まで培った培養・観察技術や知見をもとに、より良い植物細胞生物学研究に邁進していきたい。

7. 本プログラムに採用されたことで得られたこと (1/2 ページ程度を目安に記入すること)

海外での長期留学経験がなかった私にとって、留学 VISA を申請するために英語で大学の事務とやりとりをすることすら初めての経験でした。そして、拙い英語を使いながらも、家の契約、インターネットの契約、大学の ID カード発行手続きなど、様々な経験を積み重ねながら海外で生活できたことは大きな自信に繋がったと思います。また、米国の研究スタイルは日本人のそれとは大きく異なると留学以前から聞いていましたが、今回の留学はその違いを実体験する機会にもなりました。研究室内ではしっかりと研究に集中する一方、週末は友人や家族との時間を大切にするといった、はっきりと公私の使い分けをしている研究者が日本よりも多くいるように感じました。専門の職員に顕微鏡や超遠心機といった高価な研究機器の管理を任せて学科で共有することで、全員に便利な研究環境を提供するという米国式のシステムも日本ではあまり見られないものだと思います。また、半年という限られた期間でプロジェクトを進めることの難しさを実感した留学でもありました。生活面では、一週間分の食料品をまとめ買いして大きな冷蔵庫で保存したり、洗濯した服は干さずに乾燥機で乾かしたりと、日本とは違った経験が数多くあり、感動の連続でもありました。今までの自分では考えられなかった米国式的生活スタイルを実体験したことで、自身の価値観が大きく広がったように感じます。日本に帰ってからも、米国で便利だと感じたことはそのまま続けていけていきたいと思っています。

これら一つ一つのことは全て日本にいたるだけでは体験できなかったことであり、今回の留学によって研究面のみならず生活面での視野も大きく広げることができました。そして、広がった視野から改めて、自分がどんな仕事をしてどんな人生を歩みたいのかについて考えることができたと思います。